

このプログラムは、設定または参照する機会の多いレジストリの項目をメモとして記録しておき、レジストリ エディタでその項目を簡単に開くことができるようにするものです。

配布ファイル一覧

REGMEMO.EXE レジストリ メモ プログラム
SAMPLE.RGM メモ ファイルのサンプル
REGMEMO.PDF プログラムの使用方法 PDF 形式
SP_REGME.EXE ... プログラムの使用方法 自己印刷形式
README.TXT この作品についての説明
LICENSE.TXT ご利用条件

動作環境

このプログラムは Windows 95/98, Windows NT 4.0/2000 および Windows XP 上で動作します。
他のバージョンの OS 上での動作は未確認です。

以降の説明は Windows 2000 の場合について行いますが、他の OS の場合も、画面のデザインが異なるだけで機能的には同じです。

インストール

このプログラムにはインストーラはありません。エクスプローラ等から“REGMEMO.EXE”を起動するだけで使用できます。メニューへの登録やショートカット アイコンの作成等は、必要に応じて手動で行ってください。
必ずしもハードディスク上にプログラムを置いておく必要はなく、フロッピーディスク等にプログラムを入れておいて、そこから起動しても問題ありません。
ただし、拡張子への関連付け(「設定画面」の説明を参照)を行う場合、プログラムの存在する場所が変わると関連付けが崩れますので、拡張子への関連付けを行う場合はハードディスク上にプログラムを置くことをお奨めします。

アンインストール

このプログラムは、プログラムの動作についての設定を設定ファイルに保存します。設定ファイルはプログラム ファイルの存在するディレクトリに“REGMEMO.PRF”という名前で作成されます。
アンインストールするときはプログラム ファイル“REGMEMO.EXE”と設定ファイル“REGMEMO.PRF”を削除してください。
設定ファイルは最初に設定保存の操作を行ったときに作成されますので、一度も設定保存の操作をしていない場合は設定ファイルは存在しません。

このプログラムは、拡張子の関連付けの設定以外は何もレジストリに書き込みません。
拡張子の関連付けの情報はレジストリに格納されますので、拡張子の関連付けを行っている場合は、[設定]画面で関連付けを解除してからプログラムを削除するか、エクスプローラの[フォルダ オプション](Windows 95/NT 4.0 では[オプション])等で関連付けを解除してください。

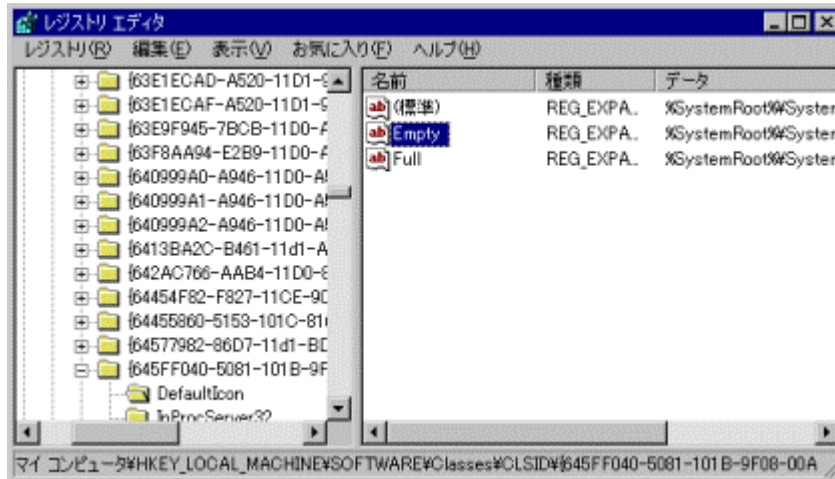
機能概要

このプログラムは、レジストリのキー／値(の名前)をファイル(メモ ファイルと呼ぶことにします)に記録しておき、このプログラムからレジストリ エディタを操作して、記録してあるキー／値の場所を開くものです。
記録した項目には、その項目についての簡単な説明を付けておくことができます。

メモ ファイル

説明 : ごみ箱(空)アイコン
キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Classes\CLSID
 ¥{645FF040-5081-101B-9F08-00AA002F954E}\DefaultIcon
値 : Empty

↓ 開く



キー／値を記録する方法は 2 種類あります。

方法 1 キー／値の文字列(“HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE¥...”等)を手入力します。

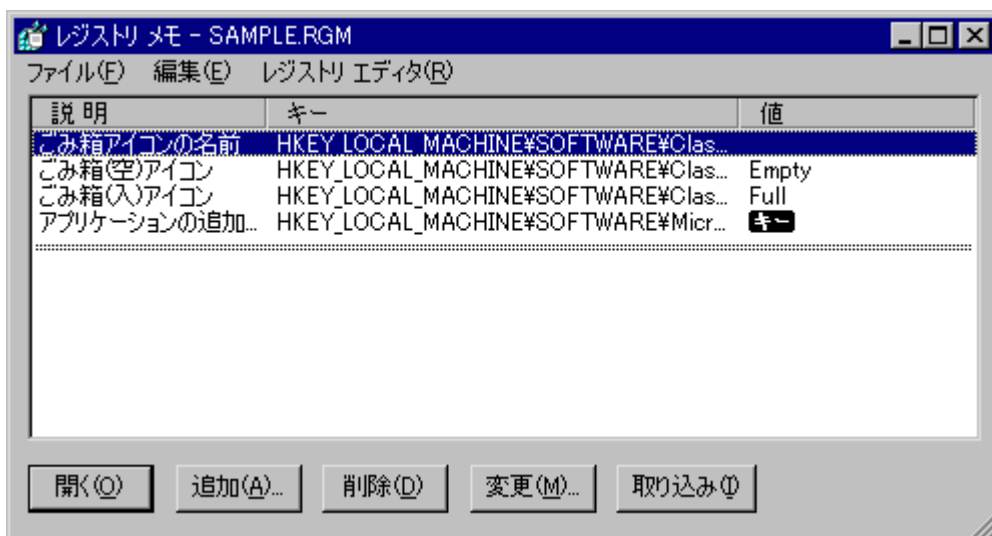
方法 2 レジストリ エディタで該当するキー／値を選択しておいて、その場所をメモに取り込みます。

記録したいキー／値をクリップ ボードから貼り付けることができる場合(たとえば Web ブラウザで検索した結果、キー／値が画面上に表示されているような場合)には、手入力の画面で貼り付けを行えば簡単に記録できます。

そうでない場合(たとえば書籍等に記載されているキー／値を記録したいような場合)には、文字列を手入力するよりは、一度レジストリ エディタでそのキー／値を開いてその場所を取り込む方が多分簡単でしょう。

使用方法

メイン画面の説明




メモに記録されている項目の一覧がリストに表示されます。

リストの最後には、新しい項目を追加するときの位置指定のためダミーの行(.....)があります。

[説明]にはキー／値の説明等任意の文言を入力することができます。

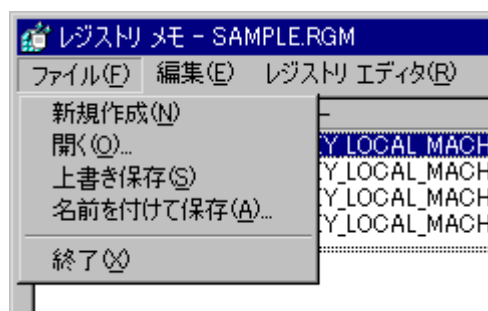
[キー]と[値]には開きたいレジストリのキー／値を入力します。

[値]に  という表示がされる場合があります。これは、レジストリ エディタを開くときに値ではなくキーを選択した状態にする指定を表しています。詳細については「メモの追加／変更画面」の説明をご覧ください。

以下でメニューの項目について説明します。

機能によってはショートカットとして、ボタンや状況依存メニュー(右クリック メニュー)でもメニューと同じ操作ができるものがあります。メニュー項目の説明に続いて、それらについて説明します。

● [ファイル]メニュー



● [新規作成]

新しいメモの作成を開始します。

● [開く]

既存のメモ ファイルを開きます。

● [上書き保存]

メモをファイルに保存します。

[新規作成]で新しいメモを作成してまだ一度もファイルに保存していない場合は、[名前を付けて保存]と同じ動作になります。

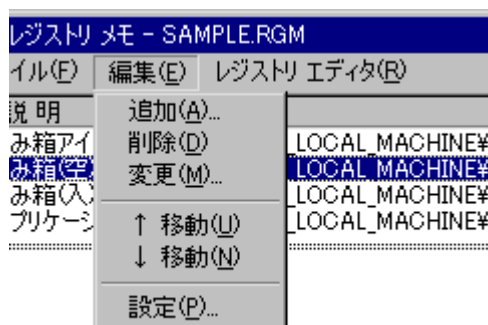
● [名前を付けて保存]

メモを新しいファイルに保存します。

● [終了]

プログラムを終了します。

● [編集]メニュー



● [追加]

新しい項目を手入力でメモに追加します。

操作

項目を追加したい位置をリスト上で選択して、メニューから[追加]を選びます。
項目入力の画面が表示されますので、項目の内容を入力して[追加]ボタンを押してください。
項目入力の画面の詳細については「メモの追加／変更画面」の説明をご覧ください。

追加した項目はリスト上で選択した行の位置に挿入され、その行とそれより下にあった項目は順に 1 行ずつ下に移動します。

リストの最後に項目を追加したい場合は、リストの最後にあるダミーの行を選択して追加を行ってください。

● [削除]

項目を削除します。

操作

削除したい項目をリスト上で選択して、メニューから[削除]を選びます。
選択した項目が削除され、削除した項目より下にあった項目は順に 1 行ずつ上に移動します。

● [変更]

項目の内容を変更します。

操作

変更したい項目をリスト上で選択して、メニューから[変更]を選びます。
項目入力の画面が表示されますので、項目の内容を入力して[変更]ボタンを押してください。
項目入力の画面の詳細については「メモの追加／変更画面」の説明をご覧ください。

● [↑ 移動]

項目の位置を 1 行上に移動します。つまり、対象の項目とひとつ上の項目の順序を入れ替えます。

操作

移動したい項目をリスト上で選択して、メニューから[↑ 移動]を選びます。

● [↓ 移動]

項目の位置を 1 行下に移動します。つまり、対象の項目とひとつ下の項目の順序を入れ替えます。

操作

移動したい項目をリスト上で選択して、メニューから[↓ 移動]を選びます。

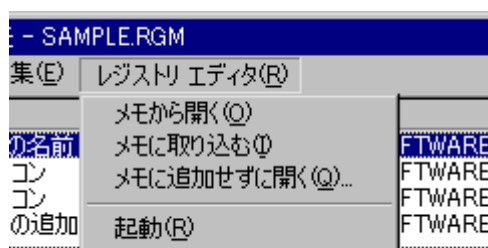
● [設定]

プログラムの動作についての設定を行います。

操作

[設定]を選ぶと設定入力の画面が表示されますので、各項目を好みに応じて設定して[OK]ボタンを押してください。
設定入力の画面の詳細については「設定画面」の説明をご覧ください。

● [レジストリ エディタ]メニュー



- [メモから開く]

項目をレジストリ エディタで開きます。

操作

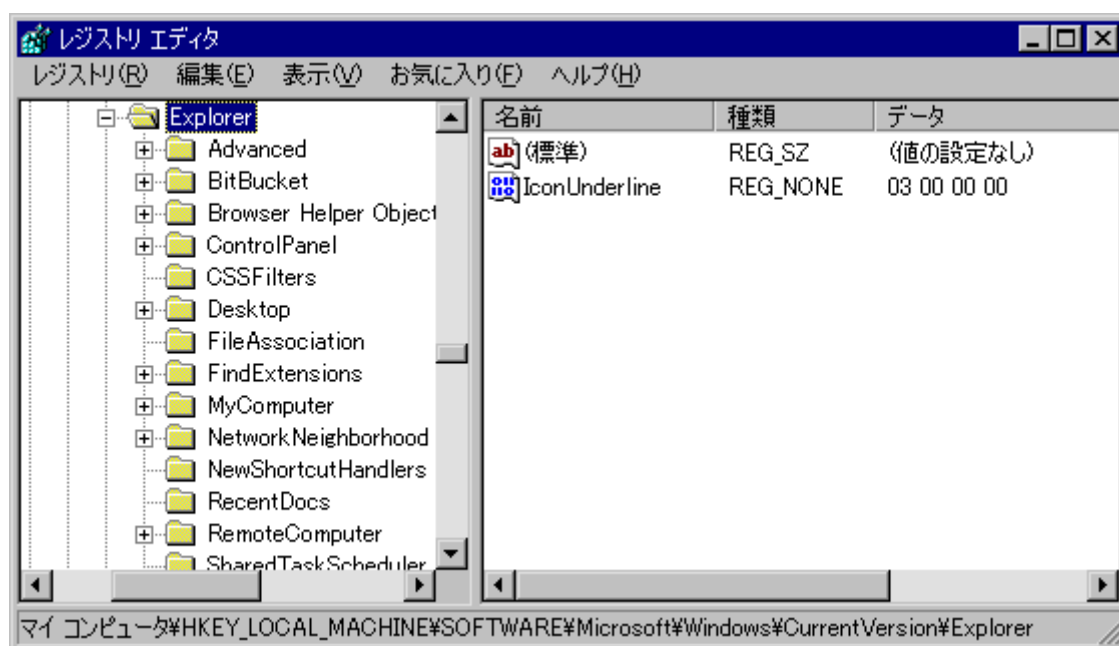
開きたい項目をリスト上で選択して、メニューから[メモから開く]を選びます。

あらかじめレジストリ エディタを起動しておく必要はありません。レジストリ エディタが起動していない場合は自動的にレジストリ エディタを起動します。

該当するキー／値が存在しないときはキー ツリーの途中の、サブ キーが一致しているところまでを開きます。

例 次のキー／値を開こうとして“Shell Icons”キーが存在しなかった場合、“Explorer”キーまでを開きます。

キー : HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Explorer¥Shell Icons
値 : 0



- [メモに取り込む]

レジストリ エディタの画面でキー／値を選択し、そのキー／値を取り込んでメモに追加します。

操作

取り込みたいキー／値をレジストリ エディタの画面上で選択しておき、項目を追加したい位置をリスト上で選択して、メニューから[メモに取り込む]を選びます。

取り込んだ項目はリスト上で選択した行の位置に挿入され、その行とそれより下にあった項目は順に1行ずつ下に移動します。

取り込んだ項目をリストの最後に追加したい場合は、リストの最後にあるダミーの行を選択して取り込みを行ってください。

取り込んだ項目には[説明]が付加されていないので、項目変更の機能で[説明]を入力してください。

レジストリ エディタの値表示のペイン(リストビュー)では複数の値を選択可能です。

レジストリ エディタで複数の値が選択されている場合は、選択されているすべての値を取り込みます。

- [メモに追加せずに開く]

キー／値を手入力し、そのキー／値ですぐにレジストリ エディタを開きます。

入力したキー／値はメモには記録しません。

この機能はメモとは直接関係ないのですが、キー／値をクリップ ボードから貼り付けてレジストリ エディタを開きたいが、一時的に開くだけでメモに保存する必要はないという場合、この機能があると便利だと思い用意したものです。

操作

[メモに追加せずに開く]を選ぶと項目入力の画面が表示されますので、項目の内容を入力して[開く]ボタンを押してください。

項目入力の画面の詳細については「メモに追加せずに開く画面」の説明をご覧ください。

● [起動]

レジストリ エディタを起動します。

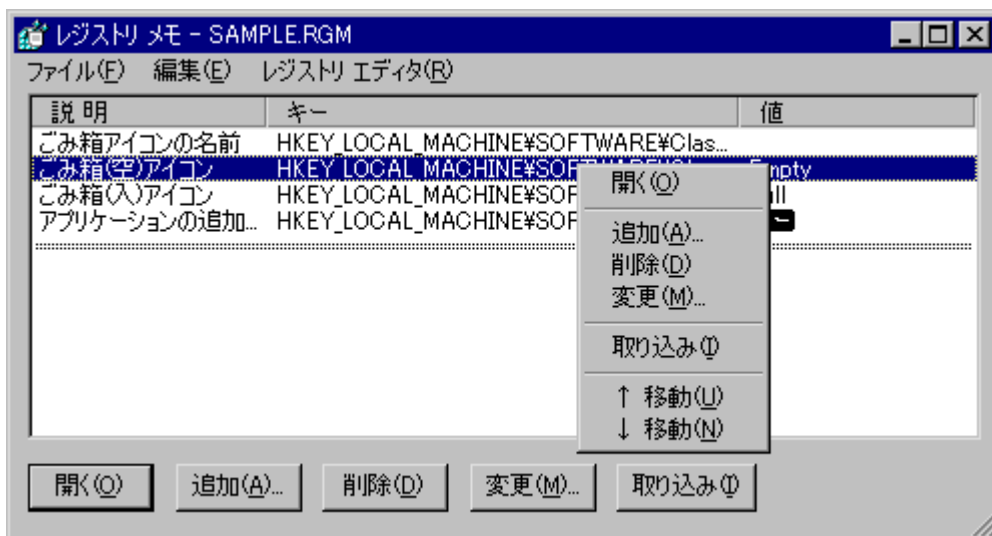
[メモから開く]機能を使う場合は、あらかじめレジストリ エディタを起動しておく必要はありません。それ以外でレジストリ エディタを起動したい場合に、この機能で簡単に起動することができます。

● ボタン

メイン画面にある各ボタンは、以下に示すメイン メニューの各項目と同じ機能です。

ボタン	メイン メニュー項目
開く	[レジストリ エディタ]メニューの[メモから開く] ([ファイル]メニューの[開く]ではありません)
追加	[編集]メニューの[追加]
削除	[編集]メニューの[削除]
変更	[編集]メニューの[変更]
取り込み	[レジストリ エディタ]メニューの[メモに取り込む]

● リストの状況依存メニュー(右クリック メニュー)



リストの状況依存メニューは、以下に示すメイン メニューの各項目と同じ機能です。

リスト メニュー項目	メイン メニュー項目
開く	[レジストリ エディタ]メニューの[メモから開く] ([ファイル]メニューの[開く]ではありません)
追加	[編集]メニューの[追加]
削除	[編集]メニューの[削除]
変更	[編集]メニューの[変更]
取り込み	[レジストリ エディタ]メニューの[メモに取り込む]
↑ 移動	[編集]メニューの[↑ 移動]
↓ 移動	[編集]メニューの[↓ 移動]

- マウスでの操作

リストに対して以下のマウス操作が可能です。

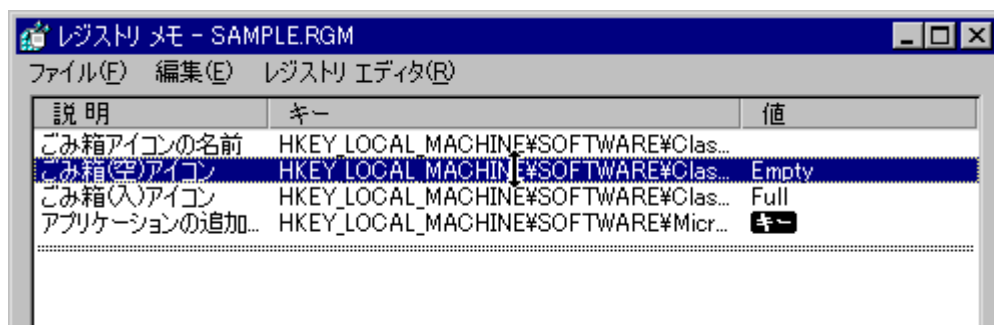
- ダブル クリックで開く

リスト上の項目をダブル クリックすると、その項目について[メモから開く]機能を実行します。

- ドラッグによる項目位置の移動

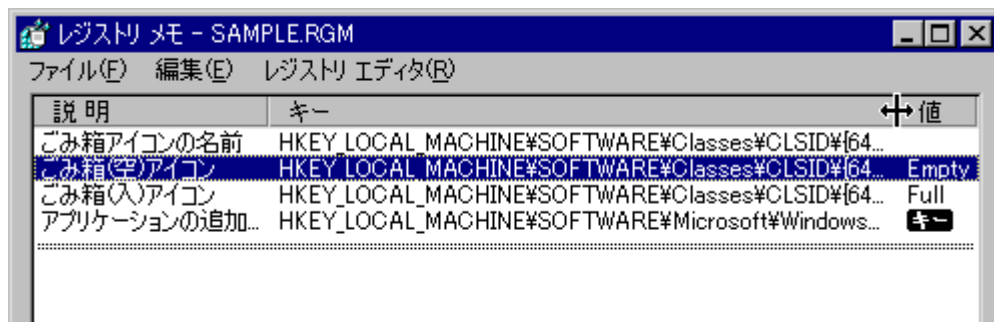
リスト上の項目をドラッグして、項目の位置を移動することができます。

ドラッグを開始するとマウス カーソルの形状が下の画のように変わります。そのまま移動したい位置までドラッグしてください。



- カラム幅の調整

リストのヘッダ部のカラムの境をドラッグして、カラムの幅を変更することができます。



カラムの境をダブル クリックすると、カラムの内容全部が表示されるようにカラムの幅を自動調整します。

メモの追加／変更画面

追加画面

追加

説明(D):

キー(K):

値(V):

変更画面

[説明], [キー], [値]の各項目を入力して[追加]ボタン/[変更]ボタンを押すと、入力した内容でメモの項目を追加/変更します。

追加/変更を中止する場合は[キャンセル]ボタンを押します。

[説明]にはキー/値の説明等任意の文言を入力します。

[キー]と[値]には開きたいレジストリのキー/値を入力します。

ルート of キー (“HKEY_CLASSES_ROOT”等)は、以下に示す省略形で入力しても構いません。

キー	省略形
HKEY_CLASSES_ROOT	HKCR
HKEY_CURRENT_USER	HKCU
HKEY_LOCAL_MACHINE	HKLM
HKEY_USERS	HKU
HKEY_CURRENT_CONFIG	HKCC
HKEY_DYN_DATA	HKDD

例 HKCR¥.txt (“HKEY_CLASSES_ROOT¥.txt”の省略形)


キーのデフォルトの値“(標準)” (Windows XP では“(既定)”)を開きたいときは[値]を入力なし(空白)にします。

[値]に開きたい値の名前を入力した場合はその値が選択された状態で、また[値]を入力なしにした場合はキーのデフォルトの値“(標準)” (“(既定)”)が選択された状態で、レジストリ エディタが開きます。

値でなくキーが選択された状態でレジストリ エディタが開くようにしたい場合は次のように操作します。

キーを選択する指定の設定方法

[値]項目に入力フォーカスがある状態で Alt キーを押しながら Delete キーを押します。

[値]項目に  という表示が出て、キーを選択する指定になります。

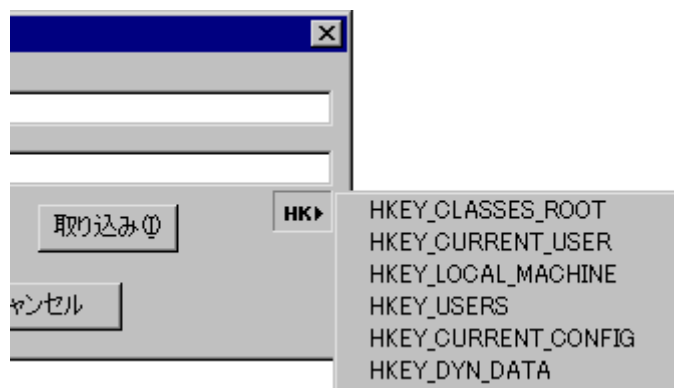
キーを選択する指定を解除する場合は次のように操作します。

キーを選択する指定の解除方法

[値]項目に何か文字を入力すると  の表示は消えて値を選択する指定に戻ります。

Delete キーや Back Space キーを押しても値を選択する指定に戻りますので、デフォルトの値“(標準)” (“(既定)”)を選択する指定にしたい場合は Delete キーや Back Space キーを押します。

[HK▶]ボタンを押すとルートの一覧が表示されます。

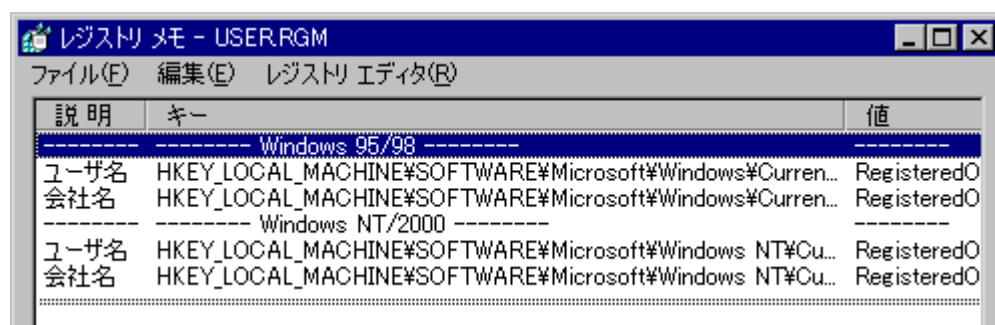


一覧からキーを選ぶと、そのキーが[キー]項目の先頭に入力されます。これによりキーの入力の手間が少し減ります。キーボード操作でこの一覧を出したいときは、[キー]項目に入力フォーカスがある状態で Alt キーを押しながら右矢印(→)キーを押します。一覧からの選択を中止する場合は、一覧以外の個所をクリックするか Esc キーを押してください。

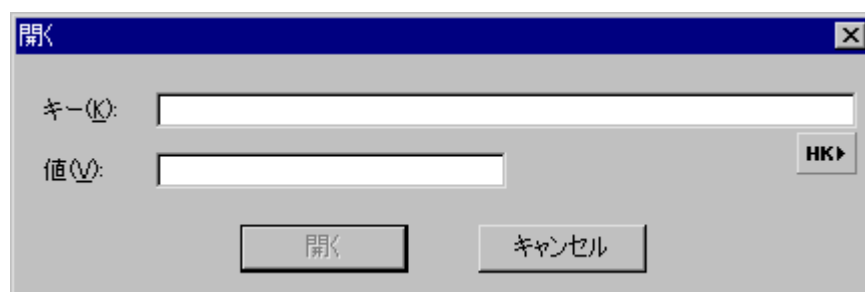
[取り込み]ボタンを押すとレジストリ エディタで現在選択されているキー／値を[キー]、[値]項目に取り込みます。メイン画面の[レジストリ エディタ]メニューの[メモに取り込む]と似た機能です。レジストリ エディタで複数の値が選択されている場合は最初の値だけを取り込みます。複数の値を取り込みたい場合は先ずメイン画面で取り込みを行ってから、項目変更の機能で個々の値について[説明]を入力してください。[取り込み]を行うと、[キー]、[値]に入力されていた内容は取り込んだ内容で上書きされます。

入力時にキー／値については何もエラー チェックはしていませんので、実際のキー／値でなくコメント等を入力することもできます。

例



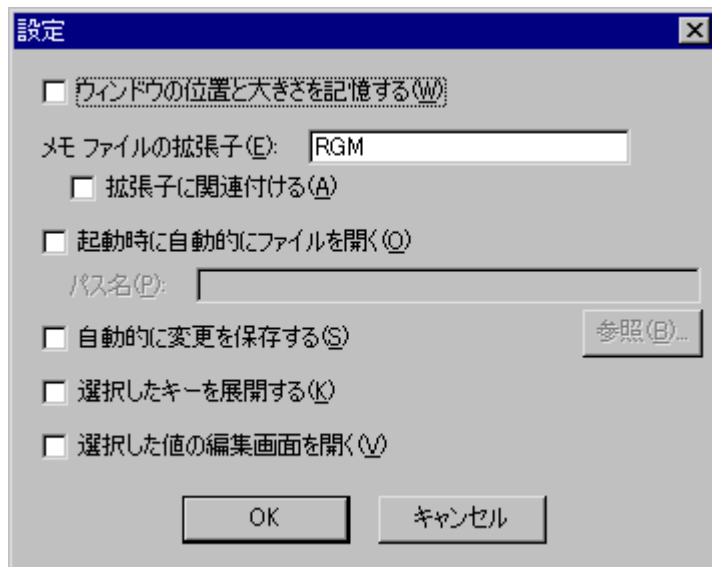
メモに追加せずに開く画面



[キー]、[値]の各項目を入力して[開く]ボタンを押すと、入力したキー／値をレジストリ エディタで開きます。開くのを中止する場合は[キャンセル]ボタンを押します。

[キー]、[値]の入力方法はメモの追加／変更画面と同じです。

設定画面



各項目を設定して[OK]ボタンを押すと設定した内容を保存します。
設定の変更を中止する場合は[キャンセル]ボタンを押します。

各項目の意味は次の通りです。

- [ウィンドウの位置と大きさを記憶する]

この項目をチェックすると、プログラムが終了するときメイン画面の位置と大きさを記憶します。次回プログラムを起動したとき、記憶した位置／大きさにメイン画面が開きます。
チェックしない場合は毎回デフォルトの位置／大きさにメイン画面が開きます。(位置はシステムのデフォルトの位置を使います。)

- [メモ ファイルの拡張子]

メモ ファイルのデフォルトの拡張子を指定します。
メモ ファイルを開いたり保存したりするときのファイル選択ダイアログで使用されます。また、このプログラムとメモ ファイルの関連付けを行う場合はここで指定した拡張子を使用します。

最大で半角文字(ANK)なら 16 文字、全角文字(漢字)なら 8 文字まで指定できます。
初期値は“RGM”になっています。他のアプリケーションで使用している拡張子と重複する場合等は適宜変更してください。
デフォルトの拡張子を指定する必要がなければ指定しなくても(空白)構いません。

[拡張子に関連付ける]をチェックすると、指定した拡張子にこのプログラムを関連付けます。

関連付けの情報はレジストリに保存されるため、レジストリを変更する権限を持たないユーザでプログラムを実行している場合は、[拡張子に関連付ける]の設定は変更できません。また、拡張子への関連付けを行っている場合で、レジストリを変更する権限を持たないユーザでプログラムを実行している場合は、拡張子の変更もできません。

- [起動時に自動的にファイルを開く]

この項目をチェックすると、プログラムを起動したときここで指定したメモ ファイルを自動的に開きます。
[パス名]で自動的に開くファイルのパス名を指定します。[参照]ボタンを押すと、ファイル選択ダイアログでファイルを指定することができます。
起動時にメモ ファイルを指定した場合、たとえば拡張子への関連付けを使って、プログラムではなくメモ ファイルを開いた場合等は、ここで指定したメモ ファイルは無視されます。

複数のメモ ファイルを使い分ける必要がない場合は、この項目と次の[自動的に変更を保存する]を両方指定すると、メモ ファイルの存在を殆ど意識せずに使用することができます。

- [自動的に変更を保存する]

この項目をチェックすると、メモ ファイルが閉じられるとき(プログラム終了時や別のメモ ファイルを開くとき等)、メモの内容

に変更があれば自動的にメモ ファイルを保存します。

この項目をチェックしない場合は、メモの内容に変更があれば、ファイルを保存するかどうかをユーザに確認します。

- [選択したキーを展開する]

この項目をチェックすると、キーを選択する指定でレジストリ エディタを開いたとき、該当のキーのサブ キーを(あれば)展開します。

- [選択した値の編集画面を開く]

この項目をチェックすると、値を選択する指定でレジストリ エディタを開いたとき、該当の値の編集画面を開いた状態にします。

その他

このプログラムでは、キー／値を開くときや[レジストリ エディタ]メニューで[起動]を選んだときにレジストリ エディタを起動しますが、レジストリ エディタが標準のプログラムの検索パスに含まれる場所に存在しない場合、レジストリ エディタを起動できません。

通常、レジストリ エディタは Windows ディレクトリに存在するはずなので問題はないと思います。

レジストリ エディタを自動で起動できなくても、レジストリ エディタがすでに起動している状態であれば、キー／値を開いたり取り込むことはできますので、レジストリ エディタを自動で起動できない場合は手動で起動して使用してください。